

## 途上国の健康医療政策を支援する「UHCナレッジハブ」の日本設置

1961年に国民皆保険制度を構築し、高齢社会にも対応したUHC(ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ:全ての人が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態)を推進してきた日本の経験は、国際貢献を通じてグローバル社会での我が国のプレゼンスを高める上でも強力な強み。国内外の課題が密接に関連する保健医療分野において、こうした国際貢献は、我が国の今後の課題解決にも還元されるものであり、積極的に取組を進めていく。

- ◆ 我が国がUHCを長年積極的に推進してきたことを踏まえ、WHOや世界銀行等の国際機関と連携して、途上国におけるUHC達成のためのデータ整備や人材育成を行う世界的な拠点、「UHCナレッジハブ」を日本に設置する。このハブを、様々な国際機関と連携したUHCのドライビングフォースとすることを目指す。

### 「UHCナレッジハブ」設置に向けた経緯

- 2023年5月のG7広島サミットで、UHCに関わるグローバルなハブ機能の重要性を確認。
- 2024年4月の世銀春会合イベントで、「UHCナレッジハブ」を2025年に日本に設立することを発表。
- 2024年5月のWHO総会にて、「UHCナレッジハブ」設置について以下を発表。
  - ・ハブは、低・中所得国の保健財政の強化等を目的に、WHOと世銀が連携し、各国の保健省と財務省の政策立案者の能力開発を支援。
  - ・設置場所は、東京エリア。
  - ・関係機関の代表を集めたUHCハイレベルフォーラム(仮称)を開催。
- 2024年6月のG7プーリアサミット(於:イタリア)で、UHC推進、医療従事者のスキルアップ等への投資に貢献することが表明され、その手段の一つとして、「UHCナレッジハブ」を位置付け。

### 「UHCナレッジハブ」の主な取組(予定)

- UHCに係るデータの整備、グローバルな知見の収集・共有
- 途上国の財務・保健当局者に対する保健財政に関する研修等を通じた人材育成
- 少子高齢化の中で質の高いUHCを維持するための取組など、日本の知見・経験の提供

# グローバルな創薬エコシステムの構築

知的財産の集積ともいべき「創薬力」は我が国の経済を牽引する成長ドライバー。海外市場の活力を我が国に呼び込み、日本の革新的なアカデミアの研究成果を創薬に結びつけることで、ドラッグ・ラグ/ドラッグ・ロスを解消し、国民への画期的医薬品の提供につなげる。

- ▶ 民間の更なる投資を呼び込む体制・基盤の整備について、必要な予算を確保して確実に実施し、製薬企業、アカデミア、政府等が相互に繋がり、協力し合う「エコシステム」の構築等を通して世界の創薬基盤のひとつとしての我が国の創薬基盤の再構築・再強化を図る。

## 創薬エコシステムの構築

### 海外の実用化ノウハウを有する人材や資金の積極的な呼び込み

- ◆ 我が国を世界の人々に貢献できる「創薬の地」としていくため、政府と国内外の製薬企業・VC等がエコシステム構築に係る議論を行う官民協議会を、来年度に設置予定

### 創薬クラスターの強化

- ◆ スタートアップを外から支えるインキュベーション機能やアクセラレーター機能など各地の創薬クラスターで不足している要素を補うことで、更なる民間投資の呼び水とし、創薬クラスターの育成・発展を目指す

## ポテンシャルのあるアカデミアシーズの実用化支援

### アカデミアシーズ等への薬効試験実施事業等

- ◆ 創薬エコシステム構築の観点から、基礎研究の段階から創薬を見据えた官民連携の事業に対する支援を行う。
- ◆ 非臨床段階のアカデミア等のシーズに対し、実用化に向けた必要なデータ取得に係る研究実施へ資金提供を行い、社会的ニーズの高い疾患の実用化を加速

## 革新的モダリティの臨床試験実施体制等の整備・製造支援

### FIH(First In Human:ヒト初回投与)試験体制等の整備

- ◆ 革新的なモダリティに対応可能な国際的に競争力のあるFIH試験実施体制の国内整備及びPMDAの支援体制の整備を進めることで、海外発シーズも含む革新的新薬候補の国内での研究開発を促進

### 製造人材の育成支援

- ◆ 実生産設備を利用した実践的研修の実施により、製造人材を育成

## 世界の感染症対策を牽引する、感染症危機管理体制の構築

次のパンデミックを見据えた感染症危機管理体制を構築することは、我が国の喫緊の課題。コロナ禍の経験も踏まえ、グローバルに影響する**感染症の分野において世界をリードする体制**を整備する。

- ▶ 新たに創設する国立健康危機管理研究機構(JIHS)を、**感染症に関するあらゆる情報をつなぐ国内外のネットワークのハブ**として位置づけることにより、**情報が集約され、その情報に人材が引き寄せられ、革新的な研究が新たな価値を生み出し、投資を呼び込む好循環**を創出する。

### 国立健康危機管理研究機構(JIHS)の創設

- ◆ 2025年4月に、国立感染症研究所と国立国際医療研究センターを、**感染症対応を中心に据えた組織として抜本的に再編**
- ◆ **感染症の情報収集・分析体制を強化し、政府に質の高い科学的知見を迅速に提供**
- ◆ **情報収集・分析・リスク評価機能、研究・開発機能及び臨床機能の全てが世界トップレベルである、世界の感染症対策を牽引する「感染症総合サイエンスセンター」を目指す**
- ◆ **平時から自治体(地方衛生研究所等)と情報収集・人材育成等を通じて協働・連携し、次の感染症危機に備える**

### 臨床研究の基盤整備、人材育成

- ◆ **感染症の科学的知見の創出や医薬品等の研究開発を行う、臨床研究ネットワークの充実**
- ◆ **地域の感染症危機においてリーダーシップを発揮できる人材を育成**

### 予防接種事務のデジタル化の推進

- ◆ **予防接種データベースを整備し、接種情報やレセプト情報等との連結解析等により、予防接種の有効性・安全性の更なる分析を行う体制の構築**

### 危機対応医薬品等の研究開発支援

- ◆ **重点感染症に対する医薬品等を開発し、円滑に利用できるようにするための、包括的な体制の構築に向けた検討**
- ◆ **企業が重点感染症に対する医薬品等への研究開発に乗り出しやすくする環境の整備を検討**

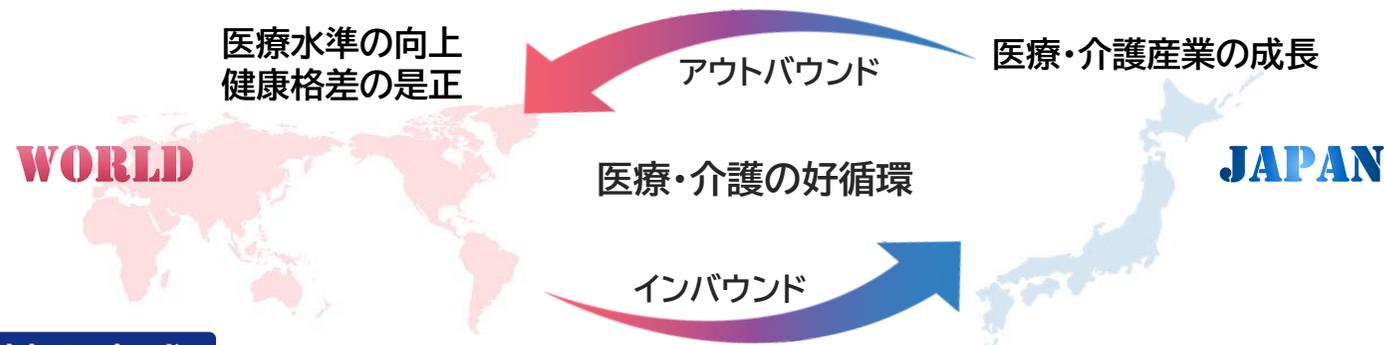
### 重層的サーベイランスの構築

- ◆ **新型コロナについて入国者を含めた重層的なサーベイランスを継続、さらに下水サーベイランスを拡充**
- ◆ **次の感染症危機に備え、急性呼吸器感染症サーベイランスのあり方等を検討し、早期導入を目指す**

※その他、新型インフルエンザ等対策政府行動計画の確実な実施や、薬剤耐性(AMR)対策への対応等も実施。

# アジア諸国を含むインド太平洋地域における医療・介護の好循環の実現

医療のインバウンド・アウトバウンド等への戦略的な取組を通じて、アジア諸国をはじめとするインド太平洋地域における国際貢献や、我が国の医療・介護産業の成長・更なるイノベーションにつなげていく。



## 外国医療人材の育成

アジア諸国を始めとするインド太平洋地域における医療水準の向上や健康格差の是正に資する外国医療人材の育成を推進

- ◆ ERIAへの拠出金による奨学金を活用した、日本の大学医学部への外国人留学生受入れモデル構築<sup>(※)</sup>のための実証(20名規模)事業の実施 (※)大学の医学部定員や外国人留学生の受入れ体制等の具体的なスキームの内容も検討

## 医療のインバウンド・アウトバウンド

訪日外国人患者の受入(インバウンド)や医薬品・医療機器の海外展開(アウトバウンド)を推進

- ◆ 医療研究の発展等に資する医療インバウンド(治療等を目的に訪日する外国人に対する高度な医療等の提供)を推進
- ◆ 医療機関等における医療通訳の配置等、外国人患者の受入れ体制の整備を推進
- ◆ JIHSを主体として、医療従事者等の派遣や研修生の受け入れを通じ、医療技術等の国際展開を推進
- ◆ 開発途上国・新興国等におけるニーズを踏まえた医療技術等の実用化のための研究事業を実施
- ◆ 国際機関における調達枠組を活用した医薬品・医療機器産業等の海外展開を促進

## 介護分野の好循環の実現を目指した海外現地への働きかけの強化

- ◆ 現地教育機関等との連携強化など海外からの介護人材の確保に積極的な介護事業者の支援
- ◆ 日本から帰国した介護人材のネットワーク構築の推進